佐保会兵庫県支部だより

昭和52年12月1日発行　〒652－12 神戸市北区緑町5－3－21　佐保会兵庫県支部事務局

絵 インフォメーション神戸　林所長

創刊にあたり

兵庫県支部長　津野貞子

佐保会兵庫県支部の創刊号発刊に当り、一言御挨拶を申し上げます。

佐保会が出来て六十有余年の歳月が数えられます。その間佐保会報が年二回発行され、私達はそれにより、佐保会本部の動向を知ることができましたが年一回の支部総会では集る会員の数も知れており、なかなか、会員相互の動向を知ることは困難でした。何かよい方法はないものかと案じておりましたが、今回支部会報を発行してはどうかという企画が執行部から出されました。佐保会員の社会的な活躍を思う時、この企画は誠に時宜を得たものと思われ、ここに創刊号発行の運びとなりました。

この会報は単に会費出納報告にとどまらず会員相互の活動状況報告—文学に科学に教育に専門を生かしたもの—であり、それによって啓蒙され、家庭人、職業人を問わず質的向上をはかり得るものでありたいと念願しております。

今夏私はカリフォルニア州立サンタバーバラ大学での国際学会に出席致しました。その時同じ州立バークレー大学を訪問致しました。その大学で教授として活躍して居られる、元兵庫支部会員の徳永千代子女史にお逢いし、その活躍ぶりを拝見することができて心強く思いました。彼女はバークレー大学で、大学院学生のよき指導者であると同時に日本人留学生の母親代りをつとめているようでした。ホームシックになる若い人達の面倒をみ、正月には自らの家によんでパーティをする。日本料理で（彼女は理科出身なのに）「私がつくるの。五十人ばかり集るので、もうそれは大変、にぎりずし、餅を入れたぜんざいも」と楽しそうに話をしてくれました。佐保会員という一本のきずなに結ばれた者の心安さ、苦労も失敗も、屈託なく話をしているといつの間にか学生時代にかえり、これからも先が長いような気がして張り切ってやらなくてはという気持にさせられました。老を忘れて張り切れるところに若さが生れるのではないでしょうか。また彼女は、もうすぐ定年退官、アメリカ永住権もとり、立派な家もバークレーに買っているので、当然アメリカで余生を過すことと思って、問いかけてみると、「日本に勿論帰る。私日本人だもの」という返事、日本のよさを再発見し若い人達に伝承する義務があると思いました。

この会報が着く度に、皆様の活動状況を知り刺激を受け、生きがいが産み出せる。そのような会報に育てたいものと思っております。皆様の御協力を心から願ってやみません。

思い草

飯田志津子

この程、支部会報を出す計画があるので、昔語りの一文をものせよとの事であるが、人間も八十路を過ぎると記憶力の低下で、録な事も書けないので、我ながら情なく思っている。そもそも我等の「佐保会」が誕生したのは、大正二年卒業の一期生の発起で、翌三年三月二十九日、前日に迎えた二期生とともに発会式を挙げ、将来の発展を期せられたことと思う。なお、その会則に「各都道府県に支部を置く」とあるから、兵庫県にもその頃支部が出来たことであろう。私は四年卒業、翌五年に藤堂先生の御導きにより、親和高女に就職、爾来すっかり「神戸っ子」になった。その頃の先輩は、堀あい姉、華岡綾子姉、神崎美津姉、宍戸茂姉、後藤ひろ姉等が一期生。石橋サヲ姉、菅井きよじ姉、森モト姉、西牧ユキヨ姉、増田シズエ姉、安藤ハツネ姉が二期生、三期生は高貫フミ（猪俣久子）姉、渡辺ちせ姉、多胡順姉、と私。初回の支部長はどなたがなられたか明確ではないが、四期生の小泉ハツセ姉がよき会長ぶりを発揮された事は、若い方達の記憶に残っていると思う。小泉姉に次いでは、松岡ふさえ姉、八木静子姉、田中菊枝姉、津田貞子姉と現在に及んでいるが、女高師時代から女子大に推移すると同時に、会員の性格も次第に変りつつあると思うが、歴代の名会長により役員方の協力もあって、有力な同窓会を醸成しつつあると誇りに思っている。支部の情勢も増強されると同時に、せめて役員会の持てる位の事務所が欲しいものと、小泉姉も多方面に手を延して利殖の道を講じられた。中でも菅井きよじ姉の如きは、ハト茶の宣伝と販売に文字通り、東奔西走された。がとうてい夢の夢で僅かに集会のための茶器や茶棚が残されたに過ぎなかった。また松岡姉のお世話で、会員相互のための頼母子講が行われて、その利潤が現在では四十万円余になって、先般東京会館建設費の協力貯金にまわして、大いに兵庫県支部の面目をほどこしたと聞いている。このように少しでも有効に使われてこそ全員の使命も満足されるだろう。しかし男高師卒が四拾円、女高師卒が参拾五円也の初任給時代から見ればこそ、大金であろうが、そのうちにはむしろ噴飯物語にもなりかねないだろう。現在の会員諸姉!!せめて本支部会費を快く納めてよき運営を役員の方々にお任せしようではありませんか。

（国漢大正3）

老木の桜

松杉山　ちよ

匂ひけぶる染井吉野の太幹の瑞々しさは滴らむとす

（加藤咲子さんに五首）

鮮らしく只鮮しく匂やかに老木の桜今日をけぶろふ

山の手の衢の辻に枝張りて老木の桜今日をけぶろふ

七十年の生命いみじく鮮らしく今年も咲けり君が桜は

風をこばみ陽をも洩らさぬひたむきのこのらんまんの老木の桜

十月二十六日、旧奈良女高師附属高女の同窓会郡山城跡にて催さる。二百人を余るにぎはひなりき。

遠き日のわがをとめらが淑く老いてわが旧姓呼ばひて迎へてくれぬ

遠き日の名を呼びくるる媼らにまじりて吾の老いのしるさよ

郡山城跡の石が寂々と十月の陽を弾きてゐるも

城跡の石垣近き太幹の桜のもみぢ堀に降りゐる

まほらばの大和の国の十月の城跡に仰ぐ空の真青さ

（国漢大正6）

＊　＊　＊

『グリーン　ハイツ親子　文庫こばと』

永尾　照美

学生時代怠け者の見本みたいに過してしまった反動からか、今頃になって息子のような大学生と共に夜学に通う身、レポートやテストやと愉快な毎日です。と申しますのは――。

もう十七、八年も昔、幼い息子達に読みきかせのため手にした絵本（福音館「子どものとも」）に目を開かれ、それ以来児童書とのかかわりが続き、病高じてライフワークとなってしまいました。

読みきかせる絵本に食い入るように迫って来る幼い子ども達の目の輝き。雨が降っても雪が降っても、そう、もう六年も通い続けて来る少年少女。家庭文庫から地域文庫への長い歩みの日々の中で、私は彼らに羨望さえ感じました。私が初めて「本」との出会いの喜びを知ったと同じように、若い母親がその感動を話してくれる時、絵本、児童書を間に、子ども達や母親達とかかわって来たことが、私にとってかけがえのないすばらしい日々だったと思う近頃です。児童文学とか、図書館学への方向をもっと早い時期に見出し、本物の基礎学問を身につけていなかったことが悔まれます。今あらためて学習をと、司書講習に通っています。

「真理が我らを自由にする」――図書館活動の講座の入口で知ったこの言葉に、また図書館の歴史を学ぶ中に、「読書の自由」と民主々義の関係の重大さを知るにつけ、あの子ども達の目の輝きは、人間本来の知的な喜びと、伸びる力の裏づけがあったのだと気づきました。日本の文化行政は全般に貧しく、全国的な図書館活動や読書活動は、地域によってはほんのまだ点にしかすぎませんが、すでに市民の図書館を生み出し、それが読書の自由や学習権の保障を確実なものにして行く力となるでしょう。この十年の流れは動き始めているのです。山奥の開発の町川西にはまだ図書館もなく、無理解からの困難は一ぱいありますが、今成長しつつある子ども達の日々に「こばと文庫」での読書体験が、彼らの心の成長の壁に何かを織りこんで行くでしょう。現在千人もの子どもを抱える文庫では、三百人近い母親の協力で、一つ一つ困難を乗り越え、子どものお城を育てています。民主々義社会を育てるための社会参加とはどんなものなのか、私たちは全身をもって学習しています。息子達の世代にバトンタッチする日まで、何か一つでも証（あかし）をと精一ぱい生きています。

いかがですか。若がえりに美しい絵本を開いてみませんか。

（国文30）

進行性筋萎縮症児とともに

伊賀　正子

昭和十六年三月に卒業して以来、家庭科教員、指導主事、高校教頭を勤め、現在は病弱児対象の県立上野ヶ原養護学校で校長として五年目を歩んでおります。

慢性疾患の小・中学生が、親もとを離れて病院で療養しながら、隣接する本校で学校教育を受けております。

ぜん息、じん臓疾患、結核その他いろいろな病気の児童生徒が学んでいますが、この紙面では進行性筋萎縮症児のことを記してみたいと思います。

進行性筋萎縮症（進行性筋ジストロフィー症）は、病名の通り筋肉萎縮が進行し、次第に肢体不自由となり、衣服の着脱、排尿排便等全面介助が必要となってきます。現在、国をあげて関係者が病因の解明、治療法や薬の開発に取り組んでいます。以前は二十才前後で他界する者がかなりおりましたが、次第に延命の傾向がみられるようになりました。このことは、医療と相まって教育によるものと医教一体が高く評価されています。

子供たちは、病弱と肢体不自由を考慮して造られた校舎で、普通教育に準ずる教育を受けています。例えば、学芸会では合唱・合奏・劇研究発表等日ごろの学習を元気いっぱい披露します。運動会では職員と子供たちとで考えたゲームや運動に歓声をあげて楽しみます。習字・図画・工作等の作品には努力のあとが伺えます。高学年に進むにつれ、難病であることを知っていきますが、子供たちの顔は明るく、病気であることを忘れて学校生活を楽しんでおります。

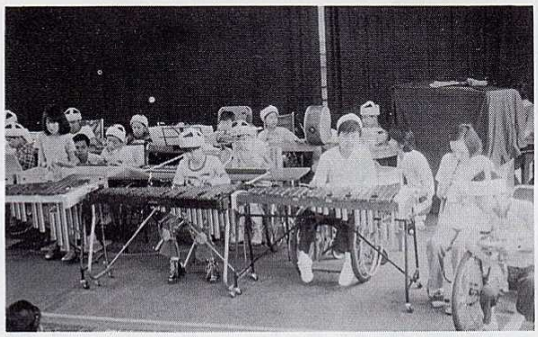
この原動力は、職員の暖かい愛情ときびしい指導にあるといえましょう。教具や運動用具には、職員の考えた手作りの物が多く見られます。車椅子の安定した座位置を心得ていて何ミリと狂わぬようにかかえて腰を落ちつかせてやります。年中トレパン姿の職員は、「手を放せ、眼を放すな」の構えで、低学年のときから障害に負けない強い子を育てるために子供たちを励ましております。

同年輩の中学生がどのような学校生活を過ごしているかを知りたくて近隣の中学校を訪問し、授業参観や座談会をもちました。夏休みには、生徒自らが申し出て補習授業をしてもらう程の学習意欲をもっております。生徒たちは高校教育を受けたいと切望しています。この願いを実現するために高等部設置を県へ強く要望しています。

中学部を卒業した者は全員が、同じ病棟で療養を続けながら社会教育学級「たけのこ学級」で学んでおりますが、この青年たちは、「私たちは短かい人生で終わるかもしれない。だから一日一日を大切に精いっぱい充実させて生きていくのだ」といっております。

私はこの患者たちとの出会いによって、生命の尊さ、ひとりひとりがかけがえのない存在であることを深く学びました。そして強く生きぬく力の支えになろうとがんばっています。

（家16A）



リズムにあわせて合奏

りんごのほっぺ

西池　節子

よく言われることだが、最近「りんごのほっぺ」に出くわすことが少くなった。私の娘も例にもれず、くすんだ肌をしていた。「ミルク太りだ」とか、「料理がまずいのだ」とか言われた。勤務の都合で、姑に育児を依頼することになった。それから三ヶ月、半年も経つと、二才半の長女は、みる〳〵顔色が冴え、口唇は紅を付けたより赤くなった。母は忠実に古来の方法を守ったにすぎないのである。私は体質だと思い込んでいたのだが『りんごのほっぺは、誰にでもつくれるものである。』と考えるようになった。

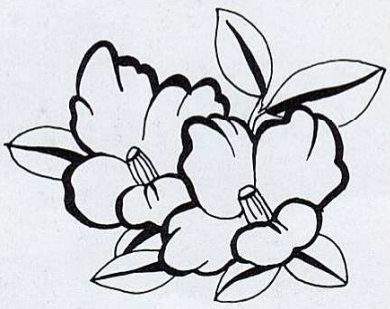
今社会では、インスタントもの、冷凍もの、カップものと便利な食品が並んでいる。おもちゃは高級化複雑化した。テレビも趣向をこらし研究された番組が続く。他にも「いいもの」が多すぎる。ネズミ(?)が繁殖し過ぎると、みんな一斉に海へ入って自滅した。という記事を読んだことがある。多すぎることへの恐ろしさである。

大切なのは、我々はこの中からどれを選ぶかである。この選択こそが、子供の身体をつくり、子供の心を育てるのである。そして、選択はほとんど母親一人の手にかかっている。

岡潔先生は「雑草をつみとるだけでよろしい。麦は自然にのびてゆきます。」と説かれた。三児の母として私は家事に忙殺され観察の眼もくもりがちである。目をこすりこすりやっと雑草らしきものを抜き取っている。どれだけ残っていることだろう。

現代ほど、母親のモラルの高さを、要求される時はないように思う。

（理数38）



円山応挙の絶筆となった大広間松の間の襖

香住の思い出

平出　美子

神戸に育ちましたのに私は豊岡高女に十三年半、家庭に九年過した後、昭和二十六年、当時県の北海道と嚇かされた香住高校に赴任しました。はじめは県下唯一の水産高校として発足し、(後には普通科も設けられましたが)水産科は内海、淡路と各方面よりの生徒で特徴のある雰囲気でした。女生徒ばかり教えていた私もやがて、将来のたくましい海の勇士にも正面より立向う度胸も出来ました。水産科生は、毎年三ヶ月北海や南太平洋インド洋まで遠洋漁業実習に出かけまして、まぐろ、鯨、おひょう等沢山のお土産に皆で舌鼓を打ったのも懐しい思い出でございます。

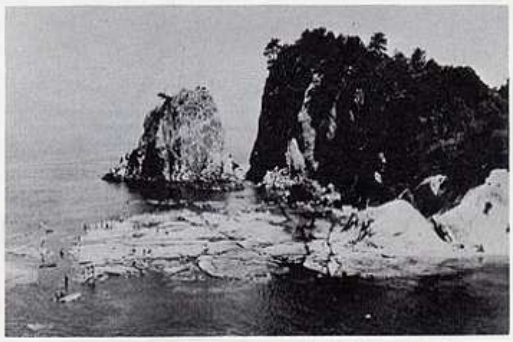
香住海岸はご存じのように、日本海特有の雄大な海岸美で知られ、絶壁上の岡見公園、今子海岸、鐘(つりがね)洞門等々すばらしい景色の連続です。またこれからは、解禁になった松葉蟹のずらりと勢揃いした香住港の景観、とりわけ雪をながめながらの蟹の格別の風味は忘れられません。また但馬の最高文化といわれる、応挙寺こと大乗寺の大銀杏も今頃は庭一面に黄葉が散り敷いて秋色一しおの趣でありましょう。円山応挙が幼い頃小僧をつとめたお寺で今もなお最後の力作大広間の襖絵が残っております。

香住は小さな沿岸漁場として発達した港町ですので、日本海の荒海のように人間は荒削りですが、非常に素朴で純情な気風です。私は自然の美しさと、人情の温かさに包まれて、つい二十三年もの永い間楽しく過させていただきました。思えば私の生涯での一番なつかしい第二の故郷でございます。とりわけ心温まる思い出は同和地区に住んだ事です。この地区は大体農家ですが、東京の田園調布といいたいような広い大きな家々の並んだ屋敷町です。皆さんが親切で、十六年間も住み、まるで親戚のような御付合いをさせていただきました。例えば朝台所に誰なのか、引き立ての大根やホーレン草などを置いて下さっているのです。全く皆様の温かさに守られた幸せの日々だったと感謝しております。今思い出して一寸恥かしくさえ感じますのは、一つは六十六才までもつい勤めて公立学校の最高年令になっていた事、今一つは最後まで着物と袴で通して色々のニックネームをもらっていた事です。

豊岡時代に生徒等と五年間研究を続けて「但馬の伝説」を出版しました。香住でも再版しましたが、今もくり拡げては、生徒や土の香りのほの〳〵として来るのを懐しんでおります。香住高校での年中行事もすばらしく、夏は校庭続きの海での水泳、冬のスキー遠足には私もスキー服をつけて元気に参加したことなど夢の様な思い出です。

海も山も空も青く、おいしい空気、美しい自然と厚い人情、豊かな食料に恵まれ、公害なども知らぬ、理想郷だと感じています。ただ懐しく思い出すまま書き連ねましたので幼稚な文をどうぞご寛容下さいませ。

(臨地歴4)



香住今子海岸の千畳敷(海侵台地)

もより会だより

「胃が痛みます」

竹崎美佐保

兵庫県支部会員になって三十年近く。会費だけは完納していますが、支部会への出席等は殆ど失礼ばかりです。この度は、こういう疎縁者も、とのこと。一筆罪亡ぼしをさせていただきます。

此頃、新聞を開くと少し胃が痛みます。カーと薬で賑った広告面に、近頃は教育関係のものが目立ちます。バサッと折込みになって出て来たりもします。曰く〝幼稚園からでは遅すぎます〟〝小学生にも○○学習を〟〝英才進学塾××〟等々。ここまで教育が産業に食荒らされているのを見ると、教職からは久しく離れていますのに、女高師育ちの教師気質に響いて、ついつい胃が悲憤(?)します。

私は現在マスコミ機関の「相談室」に少しかかわっていますが、ここにも教育問題（育児から躾、学習等々）についての母親からの相談がひしめきます。そしてそれ等が、一見子供の問題でありながら、結局は母親自身の問題に起因するケースが実に多いのです。積年の教育のゆがみが、愈々エスカレートしている中で、私は今は私のかかわる小さい範囲で「子供の教育の為に、その母親へのアピール」をする事で、幾らかでも胃の腑をなだめている次第です。

尚、家庭の方は娘二人を数年前に片付け終りました。

手離してなほ共に住む娘と我と
大人同志の自在さに居り

（文18）

丹波柏原より

足立　瑞穂

いちょうの樹が透明な秋の陽射しを浴びて黄金色に輝く季となりました。正倉院展も始まって奈良公園の秋も深まりをみせている事でございましょう。歳月の過ぎるのは、ほんとうに早いもので、私が女子大の修士課程を修了させて頂きましてから、もう十年になります。折にふれ、奈良で過した六年間が懐かしく、涙ぐむほど懐かしく思い出されるこの頃でございます。明るく輝やかしかった学生時代の思い出は、奈良という土地の思い出に包まれていよいよ深く力強く私を支えてくれるものとなっています。この十年間、私なりのいろいろな試練がございましたが、現在は母校の県立柏原高校に家庭科教師として勤務しております。丹波の緑の山と田に囲まれて八十年の伝統を持ち、各学年十クラスずつを有する大規模な高校で、私は家政科二年七組四五名の担任をしております。学校教育の現場の抱えている問題は、いろいろと難かしく、ことに知育偏重の普通科志向の人々の多いこの頃、家政科の立場は複雑ですが、だんだん年令の開いてゆく若い生徒たちに囲まれて、はりのある楽しい日々を過しております。世の中が多様化すればするほど、人間が生まれ育ってゆく家庭という場に立脚し、何をどう食べるか、何をどう着るか……この生活科学は、学問の原点に帰るものでないかと思います。

一方、一人娘も、もう小学四年生になりまして、子供の成長も、やはり紛れもなく私の生きがいであると申せそうです。子供と生徒たち、二つの生きがいの写真を送らせて頂きます。この十年間、何かと諸先輩の御力添えを頂きました。厚く御礼申し上げます。最後に、これからの佐保会の御発展を心よりお祈りしたいと思います。

（家食40）

尼崎地区の集い

佐藤すなほ

もう二十年余も昔、佐保会の最寄会を難波の中居様宅でして下さった時、初めて出席、当地区の大先輩、芳賀様、日下様方に御会い出来、お親しみ、尊敬、嬉しさを感じました事が今なお思い出されます。その後も幾度か市尼高校におられた河辺姉、現在もおられる中野姉他諸先生方の御世話で最寄会をしていただき、家庭で暮す私も第一線の皆様の御様子等伺うことが楽しみでした。

さて、最近また最寄会をとのことで、今年六月には（先に申上げた）芳賀先生の永年調停委員としての御功績に依る叙勲をお喜びして、日下様の御呼びかけでささやかなお祝会を、武庫川沿い、大樹の青々繁る同夫人のお宅で持ちました。先年お一人になられた河辺姉は停年後も数校の講師をなさって御健在。現尼崎教育委員をされる重厚な御人柄の諏訪先生、日下様は、御主人亡き後農村史に取り組まれ先般出版なさいました程のユニークな御勉強家、八十路を迎えられたとはいえ芳賀先生はまるで若い方の様に総ての事に興味シンシンと目を輝かせてものを御聞きになる　にこやかで、しゃっきりしたモダンおばあちゃまです。

芳賀先生と私となら三十才も差がありますのに五人ともそんな事を忘れてお話がはずみ爽やかな楽しいひとときでした。こうした集いに更に若い方々が入って下さる事を心より願っております。益々世の中複雑繁忙な時代になる一方で、若い内からお親しい方を近くに持ちその中での心のふれあいのほしいことでございます。又例え唯一度の出会いの間にも忘れられない方、忘れられない生き方、忘れられないお話にめぐり会える可能性もございますものね。（家19）

神戸長田区の集い

大倉　澄江

去る八月二十四日、郷芙美枝姉のお呼びかけで、はじめて長田もより会を働く婦人の家の一室をお借りして開きました。長田区在住十八名中、出席六名とは一寸淋しい気もいたしましたが、そこはやはり同じ佐保会員で、はじめてお会いした方々とも色々お話もはずみ、賑やかに楽しい午後でございました。

学校や寄宿舎の思い出、恩師や友人の御消息などお話してる中に、色々とお互のつながりも出て、年

代の違いも生活の違いも忘れ、同窓のきずなをしみじみと感じました。

お話はつきませんが、又会う事を約し、次回は中島姉（家13）井沢姉（臨家20）辛島姉（理25）に幹事をお願いして散会いたしました。初回欠席の方々も次回には御気軽にお出かけ下さいますようお願いします。今回の御世話役は郷（理8）河手（家19）川崎（理数）の諸姉並びに大倉でございました。

（家14）

神戸北区の集い

宮田ヨシ子

電車の中でのふとした立話から、とにかく集ってみようと呼びかけたところ、案外のご同意を得て、三回も会をかさねました。お互は持ちよった御菓子や、手作りの御料理に、すっかり打解けて、ケーキの作り方を教わったり、女教師としての悩みなどを真剣に話しあったり、数々の話題に時を忘れる楽しい集いとなりました。

第一回　52年8月26日　宮田宅にて　当番　宮田（理18）梶田（家住33）出席13名

第二回　52年4月1日　小田宅にて　当番　小田（家10）高山（家食43）森口（理数43）出席13名

第三回　52年8月23日　畔上宅にて　当番　畔上（臨数20）小池（文英33）出席9名

睦会

―還暦を過ぎたかい―

小春日和の半日を、淡路島を指呼の間に望む舞子ビラの一室で、人生の幾山河を越えゆきし者どもが、しみじみ話せる集いを……ということで、第一回睦会を計画しました。（51・10・30）当日お集りの方は三十名。初めてお見かけするお顔もちらほら。

召し上り物は簡単な昼食におやつ程度。ご馳走は専らお話ということにし、わが人生、わが思考、生きざま等々、心を開いての皆様のお話に、うなずき、哀歓を共にする思いでした。還暦をすぎた人々の集りとなると、こんなにもなれるものか、その天衣無縫、うそも見栄もない清々しさに、心洗われる思いがしました。時間ギリギリまで、ひとりひとりのお話が続き、楽しい思いに時を忘れてしまい、淡路島を包む暮色にハッと帰心をよびさまされる……ような集いでした。こんなに喜んで頂けたのだから来年も、と、二十三期の方にバトンをお渡し致しました。

尚、年令六十才以上の佐保会員を対象にご案内致しましたつもりでしたが、卒業年次を基にしましたので、ご案内洩れがありました。でしょうことを、お詫び致します。

当番世話係　田中菊枝（理9）

支部事務局より

行事

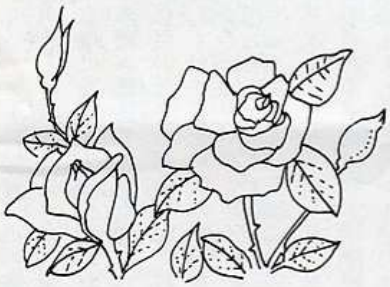
一、睦会　51年10月30日　舞子ビラにて

一、会報発送　51年12月7日

一、六姉お祝会　52年1月6日　竹葉亭にて

土井芳子、井上周子、大路涼子、内匠慶子の諸姉の幼稚園教育百年記念の表賞、印部すゑ子姉の県教育委員長三選、岡村はた姉の理学博士授与を祝って一部役員及有志が参会

一、母校卒業式後の佐保会新入会員歓迎会に本県は当番にあたり、津野貞子支部長が歓迎挨拶を行う。52年3月25日



一、支部総会　52年5月29日　貿易センタービル内バーグにて、出席者六十一名、内新入会員二名、比較的若い方々の出席も多く、それぞれ胸に大きな名札を掲げ、例年にも増して打解けた賑やかな集りとなった。津野貞子姉の食物に関する有益な講演。

◇お慶び　西牧ユキヨ姉　52年6月叙勲　勲五等

◇訃報　神出静子姉（文9）52年2月4日

三沢昌子姉（理化29）52年4月26日

ご葬儀に代表参列

◆お願い　会費未納の方

本部支部会費あわせて千五百円也、お納め下さるようお願いします。（科、卒業年、代名の明記をお忘れなく）

◆名簿につき

去る五月本部より九年ぶりに全会員の名簿が発行になりましたが、本県のは新に地区別のを作成しました。異動、記載もれ、問違い等お気付きの方は封入葉書でお知らせ下さいませ。

お知らせ

去る十一月十日、イトーピアの第三番目の寄附になる生駒佐保幼稚園の開園式が盛大に催されました。近鉄学園前駅の北、生駒市鹿の台に、園児二百人を収容出来る近代的設備万端調った、すばらしい園舎、可愛いプールもあり、囲りに若木の桜も植えられた広い運動場これ等すべてがそっくりそのまま、佐保会経営の学校法人佐保学園に無償で与えられたのです。こんな夢のような話が今どきまたとあるだろうかと、一同感激致しました。かかる佐保会の発展ぶりをお知らせして、御慶びいただきあわせて一層の御協力をお願いしたいと存じます。

編集後記

何の因果か支部報編集のご命を受けましたが、責任が重く、叶わぬことと思われました。さりとて永年のご厚誼を賜っている役員諸姉に今更強いてお断りもならず、とにかく各年令層・広範囲の情報を集め、少しでもお喜びいただけるものになればと原稿をご依頼しました。短時日に限ったにもかかわらず、このように多数の玉稿を戴き、また事務局諸姉の特別のご助力を賜わりましたことを有難く感謝致しております。今後の編集につき、忌憚のないご意見をお漏らし下さい。次号はより身近で、楽しいものに成長するよう祈っております。

（近藤房子・高岡美智子　記）